

半導体漫遊記

②⑩

湯之上隆

台湾の鴻海精密工業（ホンハイ）の郭台銘（CEO）が4月17日、台湾総統選への出馬を決めた。このニュースに、筆者は腰を抜かすほど驚いた。

郭氏は中国への融和を掲げる国民党の予備選を経て、2020年1月に総統選に臨む。台湾の世論調査では、中国からの独立を目指している民進党現総統の蔡英文氏との一騎打ちになった場合、郭氏が50・2%、蔡氏が27・1%と郭氏が断然優勢であるという（日経新聞4月19日）。

もし郭氏が台湾総統に就任した場合、激化する米中ハイテク

戦争などに大きな影響が出るだろう。米国が「国防権限法」により世界中から排除しようとしている中国フ

ォーウェイが台風1号とすれば、郭台湾総統はもっと強力な大きな台風2号となる。一体、どのような被害が出るか？

ホンハイは従業員130万人を擁する中国の大工場群によって、例えば米アップルのiPhone、米Dei

が台湾総統になった場合、米国企業がこれまで通りホンハイに電子機器の製造を委託するかどうか分らない。

ホンハイと競合する台湾ペガトロンに委託先を変えろという観測もある。もしそんなことが起きれば、ホンハイの経営が揺らぎかねない。

これを問題視した民進党の蔡政府は、半導体技術者が中国に渡ることを禁じている模様である。ところが習近平と懇意な郭氏が台湾総統になったら、台湾の半導体メーカーに「もともと中国に協力せよ」というような真逆の政策を掲げる可能性がある。そしてTSMCを創

ホンハイCEO、総統選へ

台湾の「台風2号」に懸念

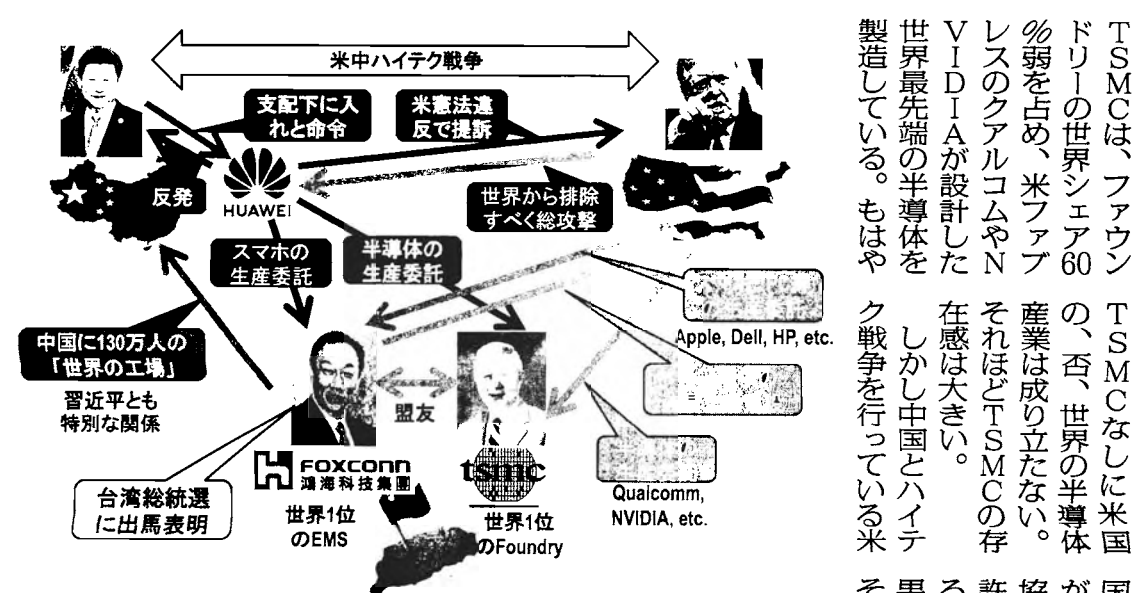


図1 米国、中国、HUAWEI、TSMC、鴻海の複雑な関係

国は、台湾のTSMCが中国の半導体産業に協力することを断じて許さないだろう。ところが圧力をかけた結果、もしTSMCがへそを曲げたら米国の半導体産業も電機産業も成り立たなくなる。要するに米国はシリコンマを抱えていることになる。

米国、中国、台湾、ファウエイ、ホンハイ、そしてTSMC。世界の半導体産業や電機産業は、複雑に絡まりあっている。台風2号となった郭氏がどのような被害をもたらすか、予測は困難だ。(微細加工研究所・所長)